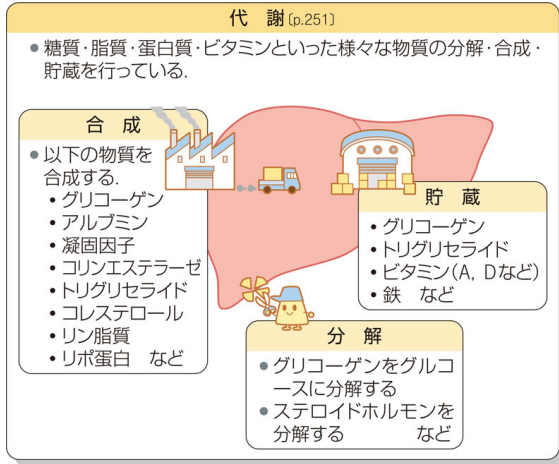


肝臓の主な機能

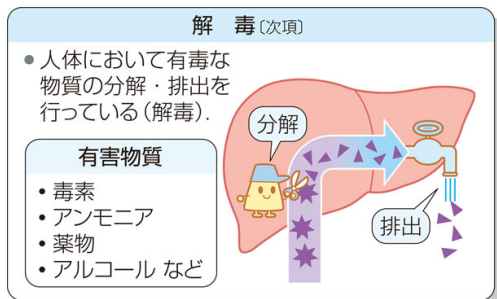
肝臓は体内の恒常性を保つために、人体にとって必要不可欠な働きを担っています。その機能は腸管から吸収された様々な栄養素を吸収して行う代謝や、有害物質の解毒、生体防御、胆汁産生など実に多岐に渡ります。

これらの働き以外にも、胎生期〜出生までの肝臓は造血の場として働きます。しかし、出生後にその機能は失われ、それ以降は骨髄が主な造血の場となります。



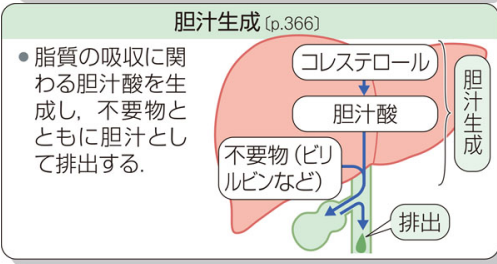
解毒機能

アミノ酸利用時に発生するアンモニアや、薬物・毒物は肝臓で代謝（解毒）され、胆汁中や尿中へ排出されます。



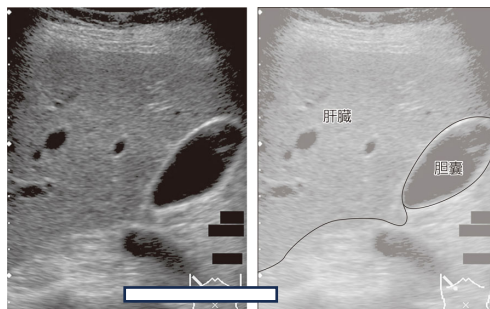
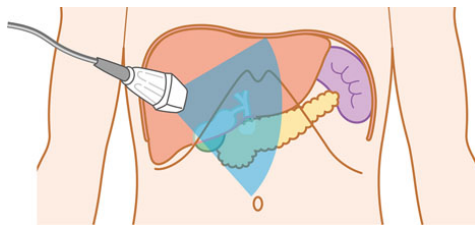
代謝機能

肝臓は体内における代謝の中心的役割を担っており、様々な物質を貯蔵・合成・分解しています。三大栄養素である糖質（炭水化物）、タンパク質、脂質をはじめ、ビリルビンやビタミン、ホルモンなども肝臓で代謝されます。



腹部超音波検査

腹部超音波検査はプローブ（探触子）より発した超音波のエコー（反射波）を検出して画像化する検査です。非侵襲的で簡便であり、肝疾患で初めに検討される検査です。肝臓の大きさや形状の他に、腫瘍の有無や肝内の血管や胆管の拡張や狭窄などの評価にも用いられます。 文責 青川真樹



写真提供：吉村 真奈